日本中国語学会々報　2019年6月

https://ss1.xrea.com/www.chilin.jp/

◆目次◆

ご挨拶 1
支部例会実施報告　2019.1-2019.5 2
会議報告 4
全国大会および例会、「中国語学セミナー」開催のお知らせ 9
選挙公示 11
事務局からのお願いとお知らせ 11

ご挨拶

大西克也（日本中国語学会会長）

会長を拝命してから瞬く間に一年が経ちました。この間、木津前会長の在任時に議論が始まった『中国語学』と予稿集の電子化がともに次号から実現し（当面紙媒体も発行)、昨年 6 月のニューズレターで予告した「中国語学セミナー」も今年 9 月に初回が開催されることとなりました。いずれも理事・委員各位のご尽力と会員の皆様のご理解のおかげです。また、5 月 10 日から 12 日にかけて、国際中国言語学学会第 27 回年次大会が神戸市外国語大学で開催されました。昨年度の全国大会を担当されたばかりというのに、この世界的な大会を実現されたのはまさに壮挙・義挙というべきもので、竹越孝会員をはじめとする神戸市外大のスタッフの方々には頭が下がります。世界から集まった一線の研究者の生の研究に接することができたのは、特に若い方々にとって大きな刺激となったことでしょう。

この場に書くかやや躊躇いもあったのですが、会長任期中に改元を迎えるという巡り合わせもあり、新年号「令和」に触れておきたいと思います。首相官邸ホームページによれば、菅義偉内閣官房長官は出典を次のように説明しています。「『令和』は万葉集の梅の花の歌、三十二首の序文にある、『初春の令月にして　気淑（きよ）く風和（やわら）ぎ　梅は鏡前の粉を披（ひら）き　蘭（らん）は珮後（はいご）の香を薫（かおら）す』から引用したものであります。」後で述べるように「淑」の訓が「きよ」となっているところが味噌なのですが、当日菅長官は「気、風やわらぎ、よく、風やわらぎ」と読まれ、NHK の字幕も「気（き）淑（よ）く」でした。私は委員長として担当していた大学の春季公開講座のテーマがまさに「気」だったこともあり、「淑（よ）い気」とはどんな気なのだろうかと思いながらテレビを見ていました。

現代の万葉学者の訳をいくつか繙いてみると、解釈はあまり一致していないようです。「空気は美しく」（中西進『万葉集 全訳注 原

文付』)、「気は麗しく」(多田一臣『万葉集全解』)、「気は清澄」(澤瀉久孝『萬葉集注釋』)等。いっぽう『漢語大詞典』で「淑氣」を引くと「温和之気」と解され、晋・陸機「悲哉行」の「蕙草饒淑氣、時鳥多好音」等が引かれています。詩の文脈に即して花の芳香と注釈されることもあります。実際唐詩などでは春の詩に多く使われているのですが、いずれにしても『万葉集』の訳との落差が気になります。

江戸時代から知られている通り、『万葉集』「初春令月、氣淑風和」は、後漢・張衡「帰田賦」の「仲春令月、時和氣清」を踏まえているのですが、「清」を「淑」に変えているのは、『説文』や『広雅』などにあるように、両者が「きよらか」という意味を共有する類義語であると認識していたからでしょう。だとすれば「淑気」とは単なる春の温かさを指すのではなく、清新さを含んだ春の気を指したのではないでしょうか。陸機は「塘上行」の中で「淑氣與時殞、餘芳隨風捐」とも詠んでいます。清々しさを失った春の(花の)気はもはや「淑気」に値しないことを示唆しているようです。「梅花歌序」の撰者とされる大伴旅人と同時代の藤原不比等は元日の清新な気を「淑氣亦惟新」(『懐風藻』)と表現し、かつて魏の曹丕は秋に咲く菊に淑気を感じ取りました(「與鍾繇書」)。

ここに書き連ねたことには、中古漢語や文学を専門としない私の誤解も含まれているかもしれません。しかし「清」を「淑」に置き換えた万葉の歌人の言語感覚を重ね合わせることで、日中に共有された漢詩の文化を背景として、詩語のイメージがより豊かに浮かび上がるとは考えられないでしょうか。「令和」の出典を『万葉集』に限定することの是非はともかく、どちらかに目を閉ざしていては、対象を的確にとらえることはできません。首相官邸のホームページで「淑」の字に「誤って」付加された「きよ」というルビは、私にはこのことへの教訓に思えるのです。改元一月後の雑感をもって、ご挨拶とさせていただきます。

支部例会実施報告　2019.1-2019.5

◆関東支部例会

◇2019 年 3 月 9 日（土）午後 2 時～4 時 40 分
中央大学多摩キャンパス文学部棟 3 号館 1 階 3101

・　三枝茂人（名古屋外国語大学）：韻鏡転図の構成原理について（その統一的理解のための 1 モデルの提示）

韻鏡は中古音の理解に必須の書物だが、韻鏡に示された韻図（転図）の構成原理はいまだ解明されていない。本発表は、韻鏡転図を統一的に説明するための一つのモデルを提示す

るものである。このモデルはアルタイ語の母音を用いて中古韻母の等と開口合口を定義することに始まるが、その結果これまで未解明であった「開合」４転図（冬鍾江支模虞韻）が現れるだけでなく、(祭韻仙韻等の）異転重紐という転図上の奇妙な配置にも合理的な説明が与えられる。これらは純粋に形式論理的操作の結果に過ぎないが、劉宋から隋にかけての韻部の変遷やアルタイ語に見られる子音調和も考慮に入れると、このモデルを支持する事象が存在することも紹介したい。

・ 齋藤萌（お茶の水女子大学・院）：「～てみる」形に相当する中国語表現に関する考察

「～てみる」形に相当する中国語表現に関する考察 日本語の「～てみる」形は、一般に話し手がある行動を試行的に行うことを表す。中国語において同じように「嘗試」を表す場合しばしば動詞の重畳形が用いられ、中国語の動詞の重畳形のもつ文法的意味と表現意図について多くの研究がなされてきた。本発表では、「～てみる」形の意味素性について［試行性:±］と［準備性:±］の側面から考察を行い、「ためしに～する」[試行性:＋]という意味をもつ「～てみる」形は中国語では、"VV"や"V 一 V"の動詞の重畳形が使用され、「～した結果…を見出す」［準備性:＋］の意味をもつ場合、中国語では"動詞のゼロ形式"もしくは"VV看"が用いられることを指摘したい。

・ 胡杰（神奈川大学非常勤講師）：关于特殊与格结构

蔡淑美（2010）讨论了特殊与格结构“V＋X＋的＋0”的语义性质和句法构造。并以 X 与 0 的关系为切入口，把该格式内部的语义关系分为了六类。例如：“罢官”类，“领导罢他的官”。这个例子中，“X”部分“他”是“罢官”的对象，也是“官”的领属者。但是这六类都有这样的说法。例如：“(1)领导罢领导的官，和你有什么关系？”这个句子要表达的是“领导进行罢官这一行为，和你没关系”，“X”的部分并不是“罢官”的对象，也不是“官”的领属者。本文会从形式语义学的观点出发，对笔者所述的类似(1)中的“罢官”的说法和蔡淑美（2010）提出的六类特殊与格结构进行比较分析，从而找出它们的关联性和相异性。

・ 簡秀文（中央大学・院）：綜述形容詞的界定與其語義語法功能之差異

關於現代漢語形容詞的界定與語法功能，在早期主要是從結構主義出發(朱德熙 1982)，主要是對形容詞外部的特徵進行描述。後來潮流轉向認知主義(石毓智 1992; 張國憲 2006)，探求形容詞內部抽象概念義的差別。其後，也有人從跨語言的概念語義反過來給形容詞劃定語法功能的核心範疇(張伯江、方梅 2007)。而當形容詞進入不同語法位置時，例如，當形容詞在動詞的前後擔任動詞的修飾語時，得到的句法身分是狀語和補語。有時形容詞在動前和動後語義不同，有時卻又難以說出差異。本文認為，造成這些影響的有三個因素：1. 形容詞的性質 2. 形容詞句內成分的共起關係 3. 時間順序原則。

◆北陸支部例会

◇2019 年 3 月 16 日（土）午後 2 時～
富山大学五福キャンパス共通教育棟 A 棟 1 階 A11 ラーニング・コモンズ

・ 宮雪（新潟大学）：“～过$_1$”と“～完”の文法的使い分けと意味的分析を中心に

本発表は行われませんでした。

・ 福田翔（富山大学）：中国語教育における語彙と文法

外国語学習では、辞書項目として記載される

「レキシコン」（語彙部門）と、語彙の組み合わせによって文を作る規則である「シンタクス」（統語部門）に分けるという考え方が根強く残っている。前者がいわゆる単語集の類で、後者が文法書の類である。しかし、実際の教育現場では、語彙として扱うか、文法として教えるか迷うことが少なくない。そこで、本発表ではいくつかの文法項目を例に、そのレキシコンとシンタクスに関わる現象を多角的な視点から整理する。レキシコンとシンタクスをモジュールとして切り分けるのではなく、連続的に捉えるとする立場から、中国語の文法教育において、「教える内容」についての再検討を行うことが目標である。

・ 山田眞一（富山大学）:『髹飾録』のテキストについて―本文の用字・用語を中心に

明代の漆工技術書である『髹飾録』（黄成著、楊明註）の原本は散佚し、写本２種（「兼葭堂本」及び「徳川本」）が東京国立博物館に所蔵されている。先行研究（佐藤 1988）では、余白に記された壽硃堂主人箋注の誤字・脱字・脱文が、「徳川本」の方が「兼葭堂本」より少ないことなどから、「徳川本」が原本により近い形であると推定している。しかし、箋注には、「兼葭堂本」が正しく「徳川本」が誤っているものもあり、箋注からだけではどちらのテキストが原本に近いか判断できない。本発表では、本文の用字・用語について写本間の異同を調べた結果を基に、「徳川本」と「兼葭堂本」のいずれが原テキストにより近い形であるかについて検討する。

会議報告

■ 編集委員会

◆第 1 回編集委員会（『中国語学』266 号）

日時：2019 年 3 月 20 日（木）13 時～17 時

場所：大学共同利用施設 UNITY（ユニティ）２階・共同研究室

出席者：竹越孝（委員長）、遠藤雅裕、丸尾誠、雷桂林、森宏子、千葉謙悟、中西裕樹、張佩茹（以上委員）

【議事】

1.『中国語学』第266号の投稿論文について

・ 投稿総数19篇。審査の結果、19篇すべてを受理した。分野別内訳は、現代語文法7、方言音韻3、音韻史3、方言文法2、歴史文法2、その他2。各篇について査読者各3名を決定した。査読報告書の提出期限を5月7日（火）とし、5月18日（土）の第2回編集委員会において採否の決定を行うこととした。

2.『中国語学』第266号の特集論文について

・ 「歐文資料與近代口語研究」（取りまとめ：吉川雅之会員）を特集とし、5本の論文を収録することとした。

3. 2019年度学会奨励賞の候補者について

・ 『中国語学』第265号に掲載された4篇の論文の執筆者の中から2名を選出し、5月の第2回編集委員会において候補者を決定することとした。

◆第 2 回編集委員会（『中国語学』266 号）

日時：2019 年 5 月 18 日（土）13 時～17 時
場所：二松学舎大学九段 3 号館 3091 教室
出席者：竹越孝（委員長）、遠藤雅裕、丸尾誠、雷桂林、森宏子、千葉謙悟、中西裕樹、張佩茹（以上委員）

【議事】

1.『中国語学』266 号投稿論文の採否について

・ 受理した 19 篇の投稿論文を査読結果に基づいて審議した結果、6 編を要二次審査、13 篇を不採用とした。要二次審査の 6 篇については、7 月 1 日（月）必着で修正論文の提出を求め、編集委員会において二次審査を行い、掲載の可否を最終決定することとした。

2. 2019 年度学会奨励賞候補者について

・ 第 1 回編集委員会で選出した 2 名の執筆者について審議を行い、学会奨励賞候補者を決定し、理事会に報告することとした。

■ 大会運営委員会

通信による持ち回り審議（2019 年 1 月 25 日～5 月 17 日）
委員：吉川雅之（委員長）、秋谷裕幸、荒木典子、伊藤さとみ、王周明、奥村佳代子、加藤晴子、濱田武志、前田真砂美、李佳樑、盧建

【報告事項】

1. 第 69 回大会の準備状況について

・ 日程と会場、招待講演の登壇者、託児所の設置、研究発表の査読・採否決定に係るスケジュールについて、確認を行った。
・ 研究発表およびワークショップの公募に先立ち、ウェブサイトに掲載する各種応募書類の修正・確認を行った。
・ 委員会内に研究発表査読チームと予稿集編集チームを設置し、その構成メンバーを確認した。

2. 予稿集の電子化について

・ 予稿集の電子化については先期委員会にて既に導入が決定しており、第 69 回大会から実施することになっているが、詳細な制度設計については今期委員会が引き継いで議論することになっている。今期委員会では以下の点について検討と審議を行った。
（1）電子版の公開方法
（2）電子版の公開日
（3）大会終了後の電子版の扱い
（4）予稿集作成要領の文言
（5）冊子体廃止年度について

各項について、以下のとおりとすることで意見の一致を見た。

（1）発表毎の分冊形式と分割しない一冊形式の両方で、ともに PDF ファイルにて公開する。

（2）責了次第、遅くとも大会開催日の一週間前までに一斉に公開を行う。

（3）2019 年度と 2020 年度については暫定的に「会員にのみ公開」とする。暫定期間後の対応をどうするか、本委員会で引き続き議論することとする。

（4）冊子体と電子版の両方が製作されることに伴う文言の変更を行う。

（5）電子化に際して一定の移行期間を設け、期間中は冊子体も同時に発行することが先期委員会で決定している。冊子体を廃止する年度、および冊子体を「全廃」するか否かについて、本委員会で引き続き議論することとする。

3. 第 68 回大会の会場で見られた問題について

・問題点を精査し、講じる対応策を検討・確認した。

【審議事項】

1. 第 70 回大会（2020 年度）開催校について

・ 同大会の開催校について審議を行い、下記 1 校をその候補として、理事会に対し報告することとした。

［学校名］愛知大学

［代表］塩山正純会員

［日程］調整中（2020 年度の学事暦が確定した段階で決定）

■ 辞典編纂委員会

2019 年 3 月 12 日、岩波書店において、編集部担当者と平田委員長、大西会長、小野委員、木津委員が今後の進行予定に関する意見交換を行った。

■ 2019 年度第 1 回理事会

日時：2019 年 5 月 19 日（日）14 時～17 時

場所：東京大学本郷キャンパス

出席者：大西克也（会長）；三宅登之（副会長）；小野秀樹、佐々木勲人、竹越孝、山崎直樹、楊凱栄（以上理事）；竹越孝（編集委員長）；吉川雅之（大会運営委員長）；鈴木慎吾（ウェブリソース委員長）；宮本徹、戸内俊介、野原将揮（以上幹事）

欠席者：加藤晴子（以上理事）；平田昌司（辞典編纂委員長）

【報告事項】

1. 一般報告

1.1 役員・委員等の異動

・ 評議員交代

関西支部：中川　裕三（天理大）

→田中 智子（神戸山手大学）

1.2 会員動向（2019 年 4 月 1 日現在）

・ 会員数：

		4/1 現在	増減
総会員数（賛助除く）		1091 名	－12
（内訳）	顧問	5 名	±0
	名誉会員	17 名	－3
	通常会員	656 名	－11
	ネット会員	332 名	＋1
	団体会員	6 名	－1
	海外会員	75 名	＋2
賛助会員		20 社	－2

※増減は昨年 10 月 1 日を基準とした数。2018 年度の除籍者は 62 名（国内会員 44 名/海外会員 18 名）

2. 支部例会関連

・ 支部例会世話人交代

関東支部：石村　　広（中央大）

→荒木　典子（首都大）

関西支部：小嶋美由紀（関西大）

→大岩本幸次（大阪市立大）

・ 今年度の例会開催予定

北海道（山田　敦士会員）：　1 回

関　東（荒木　典子会員）：　4 回

北　陸（山田　眞一会員）：　1 回

東　海（丸尾　　誠会員）：　1 回

関　西（大岩本幸次会員）：　2 回

中　国（荒見　泰史会員）：　2 回

九　州（木村　裕章会員）：　2 回

3. 大会運営委員会報告

吉川委員長より次の報告があった。

（1）第 69 回全国大会の準備状況について

1）日程・開催校・代表

［日程］2019 年 11 月 2・3 日（土・日）

［学校名］お茶の水女子大学（東京都文京区）

［代表者］伊藤さとみ会員

また理事会および大会開催日における入校制限等についての報告があった。

２）基調講演

・林若望　教授（台湾　中央研究院）

・潘海華　教授（香港　香港中文大学）

３）各募集状況

応募期間は下記の通り：

ワークショップ：5 月 1 日～5 月 31 日

研究発表：5 月 30 日～6 月 13 日

４）託児所について

(2) 予稿集の電子化について

１）電子版の公開方法

２）電子版の公開期間

３）大会終了後の電子版の扱い

４）予稿集作成要領

５）冊子体廃止年度について

以上の点について、昨年度までの進捗状況等について報告があった。電子版は発表毎の分冊形式と分割しない一冊形式の PDF が準備されること、また予稿集は遅くとも大会開催日の一週間前までにアップロードされること等について報告があった。

大会終了後の電子版の管理方法、冊子体廃止年度等の具体的な事項については引き続き検討する。

(3) ワークショップの応募規定について

・ 現状に合わせて文言を変更するとの報告があった。

(4) 全国大会分科会で見られた問題とそれに関する対応策について

・ 分科会場を出入りする際に生じる扉の雑音に関して、「入退室にはお静かに」等と記した札を用意することで対応するとの報告があった。

4. 編集委員会報告

竹越委員長より次の報告があった。

(1)『中国語学』266 号査読結果について

・ 受理した投稿論文 19 編について査読報告書に基づき採否の判定を行い、6 編を要二次審査、13 編を不採用とした。

(2)『中国語学』266 号特集について

・ 「歐文資料與近代口語研究」（取りまとめ：吉川雅之会員）を特集とし、5 本の論文を収録することとした。

(3) 学会奨励賞候補者推薦について

・ 第 2 回編集委員会において候補者を選考した。

(4) 執筆要領の改定について

以下の諸点について、改訂するとの報告があった。

・ 「１．使用言語」の表

・ 「５．注意事項」の（２）

・ 「６．引用例の出典」

「６．引用例の出典」について、ウェブサイトの参照日時や URL を明記するかどうか等、慎重な議論を要するため引き続き協議することとなった。

(5) 意見交換

以下の点について意見が交わされた：

・ 『中国語学』の表紙に「since 1947」と記述することについて

・ 『中国語学』査読者の公開について

査読者の公開の必要性の有無、公開する場合の据置期間、公開方法等について意見が交わされた。引き続き協議を続けることとなった。

(6) 問い合わせについて

・ 『中国語学』263号に関する申立てがあり、理事会の要請により編集委員会が調査・対応を行った。

5. 辞典編纂委員会報告

平田委員長の代理として大西会長より次の

報告があった：

・ 岩波書店編集部より9月から『中国語学辞典』の本格的な実務に入るとの連絡があった。

6. 中国語学セミナーについて

中国語学セミナーWG の座長である小野理事より、第一回「中国語学セミナー」の実施に向けての提案として、次の報告があった。

（1）宣伝媒体について

・ 関連学会のウェブサイトはもとより、SNS等も利用して広く宣伝する。

（2）聴講者の募集方法

・ 第一回は外部ウェブサービス「Googleフォーム」を使用する。第二回以降の運用に関しては引き続き検討する。

（3）参加費

・ 会員1,500円、非会員3,000円とする。

（4）参加費徴収方法

・ 第一回については、セミナー当日、受付において現金で徴収する。第二回以降については事前払いを導入するかどうか等、引き続き検討する。

（5）問い合わせ先の設置とその対応について

・ 専用のメールアドレスを明記し、問い合わせに対応する。

（6）第 2 回以降の運営体制（運営委員会の構成）について

・ 第一回については、現在のワーキンググループが運営委員会を兼任し、第二回は第一回に準ずる体制（委員長担当理事1名＋ウェブ・リソース委員長＋幹事1名＋委員若干名）で運営する。第三回以降は理事と幹事のみを充て職とし、他の委員は委員長が選任することとした。

（7）第一回「中国語学セミナー」について

・ 第一回「中国語学セミナー」は東京大学本郷キャンパスにて開催することとし、岩田礼会員（公立小松大学）、木村英樹会員（東京大学名誉教授）、木津祐子会員（京都大学）の三氏に講師をつとめていただくことになっている。

7. 学会ウェブサイト内の著作権に関する規定の問題点について

・ 山崎理事より学会フェブサイト内の著作権に関する箇所について、内容の重複や不明瞭な点が有ることが指摘された。今後、編集委員会等において議論を経た後、秋の理事会において審議することとなった。

【審議事項】

1. 学会奨励賞の授賞について

・ 学会奨励賞の授賞者を編集委員会の原案通り承認した。

2. 次期全国大会について

・ 大会運営委員会から、第 70 回全国大会開催校について、内諾のあった愛知大学に依頼したい旨の提案があり、原案通り承認された。開催時期については調整中（2020 年度の学事暦が確定した段階で決定）。

3. 日本中国学会「学界展望」について

佐々木理事からこれまでの経緯と今後の方向性について報告があった。

・ 取りまとめ役について

理事の中から選出するのが望ましいと思われる。

・ 委員会の設置について

委員会を設置するか、ワーキンググループの体制を継続するかについても引き続き検討することとなった。

・ 執筆者について

現在の執筆者（7 名）全員を一度に変えるのは困難であることから、3 名あるいは 4 名の新たな執筆者を任命する体制を整える方向で検討を進めることになった。

執筆者の任期についても何らかの規定を定める必要があるため、引き続き検討し、次回の理事会で審議することとなった。

4. 顧問・名誉会員の推挙について

・ 名誉会員の推挙依頼を、ニューズレターに掲載することとした。

5. 選挙管理委員について

・ 会長から、佐々木勲人、今井俊彦、橋本陽介、戸内俊介の各会員を選挙管理委員に委嘱し、佐々木会員を委員長に任命したい旨の提案があり、承認された。

6. その他

・ ウェブリソース委員会について

委員長の負担が過度であるため、委員の数について意見交換が行われた。現在の状況を把握し、委員の数を増やす方向で議論を継続することとなった。

全国大会および例会、「中国語学セミナー」開催のお知らせ

第 69 回全国大会開催のお知らせ

すでに学会ウェブサイトでご案内しておりますとおり、今年度の大会はお茶の水女子大学にて 11 月 2 日（土）～11 月 3 日（日）の日程で開催されます。ふるってご参加下さいますようお願い申し上げます。（なお、本年度の発表申し込み期間は、5 月 30 日（木）より 6 月 13 日（木）日本時間 24 時までですが、本ニューズレター発行時点では、すでに締切りとなりました。）7 月中旬に採択者一覧が、7 月末に大会プログラムが学会ウェブサイト上にアップされます。また第 69 回大会より紙媒体と共に電子版も刊行されます。詳細は学会ウェブサイト等をご参照ください。

（事務局）

今年度の例会実施予定

各支部の例会実施予定は次のようになっています。

北海道支部：1 回（9 月）
関東支部：4 回（6 月 1 日、9 月、12 月、2020 年 3 月）
東海支部：1 回（11 月）
北陸支部：1 回（2020 年 3 月）
関西支部：2 回（6 月 8 日、12 月）
中国支部：2 回（7 月、11 月）
九州支部：2 回（7 月、12 月）

発表者、参会者ともに歓迎します。ただし、開催時期および回数は変更になることもありますのでご了承ください。開催予定、申込締め切り、連絡方法などにつきましては学会ウェブサイトでご確認ください。発表者の方には発表要旨（300 字以内）の事前提出をお願いしています。この要旨は本会ウェブサイト上の例会案内のページでご紹介していま

す。また支部例会の活動記録として、学会ウェブサイト上でいつでも参照できるように保存されます。開催に関する詳細については、各支部例会世話人までお問い合わせ下さい。

（事務局）

第一回「中国語学セミナー」開催

2019 年 9 月 7 日（土）、東京大学本郷キャンパスにおいて第一回「中国語学セミナー」が開催されます。講師は岩田礼会員（公立小松大学）、木村英樹会員（東京大学名誉教授）、木津祐子会員（京都大学）を予定しています。会費について、会員は 1,500 円、非会員は 3,000 円です。受講申込み方法等、詳細は学会ウェブサイト等でお知らせします。題目および概要は下記のとおりです。

- 岩田礼（公立小松大学）：漢語方言における語彙変化の特徴

中国語（漢語）の方言差が大きいことは一般にもよく知られている。これはこの言語が広大な地域に拡散しながら、各地で経時的に変化が生じた結果である。言語変化には音韻変化のような体系的なものと語彙変化のような個別的なものがあり、また言語内部で生じた内的変化と外部方言の影響によって生じた外的変化がある。いずれにせよ、漢語方言では他言語を圧倒する量の言語変化（音声、語彙、文法のすべてを含む）が生まれてきた。J.ジリエロンによって創始された言語地理学の方法は、語（word）がなぜ、どのように変化するかというメカニズムについて多くの知見をもたらしたが、言語変化の宝庫とも言える漢語方言では、変化の要因についてさらに多くの発見が得られるはずである。この講義では、ヨーロッパや日本の方言ではみられない語彙変化の類型を取り上げ、大方には“ありそうにもない”と思われるであろう解釈を提示することで、言語地理学的考え方の一端を紹介したい。

- 木村英樹（東京大学名誉教授）：現代漢語文法の史的特質―― 現代語文法と歴史文法の接点を探る

先秦時代や漢代の漢語が現代においては古漢語と称されるように、当世の現代漢語も千年後あるいは二千年後には「古」漢語の領域に入る。現代漢語における文法研究の成果は、後世においては「古」漢語文法の研究資料となる。その意味において、現代語の文法研究もまた歴史文法研究の一齣に過ぎない。今回のセミナーでは、現代漢語におけるいくつかの文法現象を歴史的な脈略のなかで捉え直し、漢語の通時的な多様性と汎時的な特質の一端を明らかにし、併せて、歴史文法を視野に入れた現代漢語研究の意義および可能性を探る。

- 木津祐子（京都大学）：琉球久米村通事が学んだ官話―― 通事が用いた教材の写本間差異を手がかりに

琉球久米村通事は琉球王国の対中国朝貢貿易の核心を支えた職能集団である。彼らの母体は、明代の移住華人「閩人三十六姓」をルーツにもつと伝えられるが、通事職の重要性

が増すに伴い、官話を習得した那覇や首里出身の士族の一部も久米村籍に編入された。久米村通事が官話学習の為に独自に編纂した官話教材からは、中国境内の文献では解明の困難な、明清期口頭言語の一斑をうかがい知ることができる。ただ、それら久米村で撰述された官話教材のすべては写本でのみ伝わるので、写本間の異同や注文の読解など、取り扱いに際しては細心の注意が必要である。

本セミナーでは、琉球通事とその官話教材の概要及び各写本の扱い方を講じ、併せて、主として写本間差異から浮かび上がる教材撰述の背景や使用される官話の来源についても論ずることを目指す。

（事務局）

選挙公示

2019 年 11 月 2 日（土）、第 69 回全国大会会場（お茶の水女子大学）において、日本中国語学会「会長及び理事選出方法に関する内規（会則第 10 条関連）」に基づき理事の選挙を行ないます。選挙は専用の投票用紙によって 4 名連記で投票し、即日開票の上、得票数上位 8 名を候補者とし、そのうち最高得票者を会長、その他の 7 名を理事の当選者とするものです。被選挙人名簿は、10 月初旬までに学会ウェブサイトに掲示するとともに、当日、大会会場受付にて投票用紙とともに配布いたします。

選挙管理委員会委員

佐々木勲人（委員長）

今井俊彦、橋本陽介、戸内俊介

（事務局）

事務局からのお願いとお知らせ

■ 名誉会員の推挙について

名誉会員の推挙は、9 月 30 日までに推薦文を添えて事務局宛にお願いします。なお、名誉会員称号授与の条件は、年齢満 70 歳以上で継続して 20 年以上本会会員であった方のうち、本会の発展に功労のあった方となっており、評議会の審議を経た上で会員総会において決定されます。

■ 住所不明の会員

事務局より送付した郵便物が返送されてきた会員のお名前を掲げておきます。もし御自身のお名前を見つけましたら、速やかに e-naf から住所変更の手続きを行なってください。またお知り合いの方のお名前がありましたら、事務局までご連絡をお願いします。

荒屋　勸、乾　俊文、上野　倫代、簡　靖倫、張　軼欧、陳　昭宜、中野　尚美、林　君穂、松岡　純子、山下　輝彦、湯山　トミ子、楊明、楊　立明、劉　乃華、沈　徳思、張　群、蕭　景浚、東　会娟、氷野　歩、林　文慧、

董　雪嬌、張　晨迪、朱　美英、李　穎清、王　燕、陳　述、賈　智、張　昆、楊　鉄錚、王　玉、石　亮亮、陳　家隽、許　芸涵、李　婷、劉　玲、王　笑飛、胡　貴躍、宋　蔚、西坂　祥平、湯　明昱、王　煒煒、于　姝君、白　煜、吴　婷、許　諾、黄　竹佑、楊　洲、薛　晨、鄭　思婷、楊　沐藝、崔　盼盼、江　氷燕、陳　相偉、孫　日環、呉　芝蒸、宮　雪、李　藝、銭　金玲、潘　瀟、令狐　菁菁、劉　妍、孫　徳坤

■　2019 年度会費納入のお願い

先にお送りした請求のご案内の通り、本年度会費（一般会員6,000円、ネット会員5,000円）を最寄りの郵便局からお振込下さい。

郵便振替　加入者名：日本中国語学会
口座番号：00980-6-282216

『中国語学』バックナンバーなどに記載されている旧口座には振り込まないようお願いします。なお、これまでの会費が未納の方は請求のご案内に記載していますので、一括してご入金下さい。もし記載請求金額が15,000円以上となっておりましたら、今年度ご入金いただけませんと、会則《会費納入に関る内規》により除籍となりますのでご注意下さい。

■　会員情報更新のお願い

御所属や身分の変更がありましたら、会員データ管理システム e-naf にアクセスして、確認と更新をお願いいたします。職名については、該当する職名を選択してください。国内会員の場合、教授／准教授／助教／非常勤／院生／研修員の中から選択してください。また名誉教授／専任講師／（客員）教授は、そのまま記載してください。大学院研究生／科目等履修生などは「院生」に、(R)PD／（学振）研究員などは「研修員」に含みます。それ以外の場合は、上掲の選択肢の中から一番近いカテゴリーを選択してください。

海外会員の場合、教授／副教授／助教／講師／博士生／進修生の中から選択してください。また「助理教授」は「教授」と混乱する恐れがあるため、「助教」と略記してください。「碩士生／博士生」は区別せず「博士生」と表記してください。

具体的な凡例については、e-naf の会員登録情報のページを御覧ください。なおこの凡例は事務処理を目的としたものですので、今後も実情に応じて改訂することがあります。

■　退会について

退会は会費納付が前提となっています。退会ご希望の方は必ず会費納付後の年度内にお申し出下さい。

■　特別規定廃止のお知らせ

2017 年 11 月 11 日、中央大学多摩キャンパスで開催された評議会および総会において会則 の[付則]の改正が承認されたのち、内規に準じて規定が廃止されました。これにともない、ネット会員は 2020 年 4 月 1 日以降、通常会員に統合されます。同時に、通常会員に対して行っていたニューズレター、支部例会案内等の文書の郵送も、特に必要とする場合を除き、廃止することになります。ネット会員への会費の優遇措置も廃止することになります。なお会誌、会費請求書類、会員名簿は、これまで通り郵送いたします。

■　予稿集の販売

過去の大会予稿集は好文出版にてお求めになれます。第61回までは1500円、それ以降は

2000円となっています。詳しくは学会ウェブサイトをご覧下さい。在庫につきましては好文出版（order@kohbun.co.jp）に直接お問い合わせ下さい。

■ 事務局の連絡先　2019 年 3 月まで

事務局への郵便物は、
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学文学部中国語中国文学研究室内
日本中国語学会事務局宛
にお願いします。また各種のお問い合わせは、学会ウェブサイト（https://ss1.xrea.com/www.chilin.jp/）内の「お問い合わせ」ページをご利用ください。

日本中国語学会々報　2019 年春季
（年二回発行）
発行者：日本中国語学会事務局
〒113-0033
東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学文学部中国語中国文学研究室内
E-mail: jimukyok_clsj@chilin.jp
URL: https://ss1.xrea.com/www. chilin.jp/
発行日：2019 年 6 月 20 日